

第1回子ども・子育て会議に係る委員のご意見と区の考え方

No.	項目	委員意見（要旨）	区の考え方
1	人口推計について （資料第4号）	人口推計は現行の3か年平均よりも、5か年平均で算定する方が現時点では妥当であると考えます。	過去3か年の出生率の推移が乱高下しているような状況の中、3か年の平均で算出する方法では、実態に見合った人口推計が難しいのではないかと考えられることから、人口推計は、今年度は5か年平均の人口の伸び率を基に行ったものを提案しました。
2	人口推計について （資料第4号）	特に0歳人口（出生数）の推移の読みが難しいと考えられるため、算定方法を5か年平均にしたことは妥当と思われる。	反対のご意見が寄せられなかったことから、その人口推計に基づき、子育て支援サービスのニーズ量を算出しております。
3	人口推計について （資料第4号）	出生率の推移を過去3か年から5か年の平均に変更したことは、期間が長い方が誤差が生じづらいため、良いと思われる。	ご意見のとおり、文京区は「子育て世代に選ばれるまち」として年少人口は増加傾向にあり、全国とは異なる状況です。このため、文京区の実情を踏まえた子育て支援事業を展開する必要があります。今後も新型コロナウイルス感染症の影響などを注視し、ニーズに応じた適切な子育て支援サービスを検討してまいります。
4	人口推計について （資料第4号）	日本全体の傾向として子どもが少なくなっていると聞きますが、文京区は平成15年の1,123人から令和元年の2,044人に倍増している。文京区が子育てしやすいと口コミが何かで広がって、子育て世帯が移住してきている可能性も考えられる。子育て施策の成功と言えるのではないかと考えます。	人口推計の検証に当たり、誤差率の許容範囲は特段設けておりませんが、誤差率がマイナス（▲）の場合は、再算定では、ニーズが少なくなるため、確保方策が大きすぎることとなります。一方で、誤差率がプラスの場合は、確保方策が足りなくなると考えられます。再算定の結果、不足が明らかに生じた場合には、計画期間中に確保方策を見直す必要が生じます。
5	人口推計について （資料第4号）	人口推計の誤差率がどの程度でどのような不具合が発生するのか。令和2年4月1日時点の0歳児は、誤差率▲4.8%となっているが、例えば、誤差が3%を超えたから保育園の待機児童が増えるといった傾向はあるか。	

No.	項目	委員意見（要旨）	区の考え方
6	人口推計について （資料第4号）	計画上の数値と実績の差は当然に生じるもので問題ないものと思われる。出生数は前年（平成30年）より下がっているが、出生率は平成30年にかけて増加しており、子育てしやすい環境による証拠だと考えられる。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、郊外（他区、他県）への人口の流れもあるので、今後も慎重に動向を注視していきたい。	ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響のほか、人口推計に影響を与える可能性のある要因については、今後も状況を注視してまいります。
7	今年度における計画改定の必要性について （資料第5号）	今年度の検証結果は、計画よりもニーズ量の伸びが抑制されたものの、この結果だけで直ぐに計画を改定する必要がないと思われる。	今後のニーズ量については、年少人口の動きのほか、新型コロナウイルス感染症の状況など、今後の動向に注視していく必要がありますが、計画改定の必要性が有る旨のご意見が無かったことから、今年度は計画の改定は行わないこととします。
8	今年度における計画改定の必要性について （資料第5号）	計画策定時のニーズ量の伸びが抑えられた再算定結果であること、認定こども園化の状況を見ていくなど、すぐには計画の改定の必要性が無いと思われる。	

No.	項目	委員意見（要旨）	区の考え方
9	<p>今年度における計画改定の必要性について （資料第5号）</p>	<p>0歳児の保育、小学生の育成室が不足する見込みが今後あると計画にある。不足を埋める準備は必要だが、民間の施設を考慮すると不足は無くなると思われるため、今後は質の向上、サービスの向上に目を向けることも必要だと思われる。</p>	<p>ご意見のとおり、今後は、量的拡充のみならず、これまで行ってきた質の確保に向けた取組みを強化する必要があります。私立認可保育所等に対する指導体制の強化として、令和2年度から、保育士に加え、看護師及び栄養士による指導を開始しました。今後は、それぞれの専門性を生かした指導を行っていくとともに、引き続き指導体制を強化していきます。</p> <p>なお、依然として保育を必要とするご家庭がある状況であるため、待機児童解消に向けて、保育所の整備についても適切に進めてまいります。</p> <p>また、育成室については、区内全域のニーズ量の不足であり、各施設に換算すると0名～数名であることから、単純に施設を増設する判断が難しいところです。ただし、この傾向を念頭に置きながら、施設整備を進めてまいります。</p>

No.	項目	委員意見（要旨）	区の考え方
10	その他	<p>保育園の設置が急速に実施され、待機児童も少なくなっていることは良いことである。</p> <p>子どもの成長とともに保育園児は小学生になり、今後は育成室の充実が求められると思われる。高学年になると自分で考え行動できるが、保護者同伴の保育園から自分で行動する小学1年生の壁は、働く保護者にとって大きく、仕事を辞めてしまう保護者もいると聞く。</p> <p>ファミリー・サポートの活用方法などを伝え、子どもの生活がスムーズに移行できる方法が求められると思う。他区では「学童」というが、文京区は子どもの育成のため「育成室」としている聞いた。全国の中でも水準の高い文京区の育成が今後とも、質・量ともに充実することを期待している。</p>	<p>計画を推進していく過程において、いただいたご意見が反映できるよう努めてまいります。</p>
11	その他	<p>会議資料として配付された子育て支援計画等の資料について、文京区の子育て支援の充実を読み取ることができる。</p> <p>「子育てガイド」は、年齢に合わせ、今、何をしたら良いかが分かりやすく、区が子育てを支援していることが実感できる。「子育てガイド」の作成の背景には、ニーズの調査の実施、支援計画作成と進捗状況の確認、そして次年度の支援計画作成のサイクルの中で練り上げられた確かな根拠を感じることができる。今後とも、子育て支援の一環として様々な時や場所で有効に資料を活用したい。</p>	<p>「子育てガイド」は、妊娠中から子育てまでに関する最新情報を収集し、民生・児童委員、主任児童委員と協働で年1回発行しております。引き続き活用していただけるよう、ニーズを踏まえた冊子づくりに取り組んでまいります。</p>

No.	項目	委員意見（要旨）	区の考え方
12	その他	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による、保育園の登園の自粛期間については、他区に比べて長い（板橋区は7月から通常どおり）と思うが、問題はなかったか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の対応については、規制の緩和が見られる業種がある一方、一定数の罹患者が毎日発生する等、警戒態勢を要する状況が続いております。保育園は就労だけでなく、病気や介護の他、様々な要件で保育の必要性のある方が利用しており、罹患者が発生するなど園が完全に休園となる事態を極力回避するよう、感染症対策を継続し、「家庭保育の協力要請」期間につきましても継続しているところです。</p> <p>「家庭保育の協力要請」については、保護者の方の判断において、登園を控えることが可能な場合に限り、ご家庭での保育をお願いするものです。ご協力いただけるご家庭に、ご協力いただける範囲でお願いするもので、登園する場合は、本来の保育の必要性をもってどなたでもご利用いただけますので、保育園の登園の自粛の期間が長いことによる問題はないものと考えております。</p>